



特集 病院経営における 集患の効率化

藍野病院（大阪府）の地域医療推進室室長である梅本 豊様に病院経営における**集患の効率化**及び各医療機関との**戦略的なパートナーシップ形成**のポイントについてお伺いしました。

地域医療センターの役割

病院の経営における根幹である**入院患者の受け入れ**を支えるのが地域医療センターの役目です。入院患者が獲得できなければ医師、看護師、コメディカル等は医療の提供ができず、病院の運営も厳しくなってしまいます。その中でも特に「**患者の紹介数**」に関しては**地域医療センターの力量が病院経営に大きな影響を与える**、と言えるでしょう。

集患の効率化とデジタル化

紹介を通しての入院患者の受け入れ増加のために、病院は**集患**に力を入れなければなりません。窓口に寄せられた声を**データベース化し分析**することで、**自院が地域において期待される役割を適切に理解**し、迅速かつ的確に**渉外活動の戦略を練**ることができます。



Q.月刊こみゅりんくとは？

A.月刊こみゅりんくは株式会社プレアデスセブンが提供する病院経営に関するオンライン講座「**こみゅりんく**」を月別にまとめたものです。裏面に詳細を記載しています。

戦略的な対外活動

「**入院依頼件数**」はどれほど地域社会に求められているか、を示す指標です。では、この指標をどのように分析すべきでしょうか。

①病床別に分析

病床別に依頼件数を分析することにより「**病院の中でも特にどの病床機能に入院依頼が寄せられていないか**」を把握することができます。一般急性期病院が少ないのであれば地域の病院や診療所に積極的に営業活動を行うなど、戦略的に**渉外活動を進め**られます。

②依頼元別に分析

依頼元の情報を分析することで、「**どの病院にどのように営業すればいいのか**」が明確になります。既存の連携機関からの依頼が減っているのであれば**関係の再構築**を、そうでなければ**新規開拓**を、といったように、**依頼元の分析により無理なく適切に連携先を増やす**ことができます。

今回のこみゅりんく講師



梅本 豊

藍野病院 地域医療推進室 室長

今月の



導入事例

中江病院（鹿児島県）

Q.業務DXの具体的な事例とは？

以前の連携室業務は、FAXの診療情報書と、Excelにまとめた相談情報を、関係部署にコピーで配布するなど、アナログ作業に多くの手間と時間が必要でした。ココりんくは、**入力も簡単**ですし、患者情報を登録すれば、どの電カル端末でも情報が確認できるので、**部署間情報共有や医師判定もスピードUP**、結果的に**稼働率が向上**しました。

Q.利用するスタッフの反応は？

病床稼働率などの「経営指標」や、医療区分・ADL区分などの「施設基準」情報を、電カル&レセコンから自動で収集して、職員**ポータル画面にグラフ表示**したことで、スタッフが担当する病棟稼働率の認識率が9.3%→84.0%へと大幅改善しました。**全員で重要指標を共有&何をすべきか明確**になることで、経営に好影響が出ました。



【病床機能】

回復期リハビリ病床 20床
医療療養病床 69床

【特徴】

鹿児島市の中心部に位置する中小規模病院。鹿児島県の人口あたり病床数は高知県に次いで第2位。

経営改善の実践的戦略を学ぶ。
こみゅりんくで次の一手を！



人口減少、病床機能の変革…。これからの「地域包括ケア戦略」を明確にして、近隣エリア内の急性期や在宅ケアからも愛される「地域包括ケアNo1病院」を目指し、データに基づく戦術を学びます。



現状看護部主導でのベッドコントロールからチームでの活動へと変化するきっかけとなりました。

他施設や他院から当院に対する要望等聞けたことで、改善策の検討を部署内で話し合うことができました。

日程

第3期 2024年 7月22日(月)～
第4期 2024年11月11日(月)～

回数

全7回（講座4回）

方法

オンライン講座



費用

無料



ヘルスケア × IT × 経営支援

株式会社プレアデスセブン

☎ 096-273-7911

✉ official@pleiades7.co.jp